

さくら第465号

平成30年9月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境17-7:TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『まず、行動してみる』

東京での全国代表者珠算会議に出席するために土曜の朝、福井駅から特急しらさぎの指定席に乗るとすぐ単行本を読んでいました。

敦賀駅から乗車した30歳中頃とおぼしき男性が左の窓側の席に座るとノートを出して何やら書いています。ふと視線にノートの右端に引いた赤い線が目に入りました。

その瞬間、神戸市に住む友人が珠算の全国紙に書いたある文章を思い出します。それは、まったく知らない人、面識のない人と話すことが脳の働きを増し活性化するというような内容です。

毎日、一人と話しても1年では360人余の人からいろんな話が聞けるということでしたが、毎日一人など無理。せめて月に一人ならと思い、時には市内バスの停留場で待っている時に見ず知らずの人に挨拶したこともあります。

そこで、一瞬ためらったのですが、その男性に思い切って聞きました。「失礼ですが、ノートの右端から4cmほどの所に赤い線が引いてあるのが目に入りました。どういう使い方をされるのですか。私は左端に線を引くのですが」と言えば、その男性は「書いている中で大事な事や日付、数、人の名前などを書きます。あとで見直した時にチェックポイントがすぐ分かるようにしています」と言いながら、左右どちらに線を引いても同じだとは思いますがよとさわやかな声で答えます。

「赤ペンで書かれるのはなぜですか」と問えば、「赤で書いた文字は記憶に残るというので

私はそうしています。赤色は脳が刺激され、記憶が増すそうです。大学時代いろいろ調べたところ、赤色で書くことがよいと分かりました」とのこと。そこで、私もふだんは赤ペンで書きます。記憶力が増すなどと思っていなかったのが嬉しくなりました。ありがとうございますと礼を言い、今から東京での会議に行くのですか、敦賀駅から乗られたので原子力発電関係の方かと思いました。と話せば、昨日、それとは違う会議で来て今日東京まで帰るとのこと。

私は大学にいたのですが、あなたはどんなお仕事ですかと聞かれ、そろばん塾です。子ども達にそろばんを教えていますと言えば、そろばんだと暗算ができるのですね。私はできないのでうらやましいですと言われました。

話しを伺ってとても得した気持ちになり、今日は何かいいことがありそうですと言って話を切りました。男性はノートに何かを書いており、私は米原駅まで本を読みながら下車時に、軽くあいさつして別れました。

東京での会議が夕方終わると新幹線で新大阪駅下車。翌日の近畿ブロック会議に出席するため帰宅せずの大阪泊りです。天王寺駅近くのホテルへチェックインすると、前もって連絡しておいた大阪市内在住の友人2名と合流し、夕食にでかけました。

夜10時ごろにホテルへと歩道を歩いていると、20歳前後と思えるような男性二人がカメラの三脚を立てて撮影しています。「何を撮っているんですか？」と聞けば、私たちの後方を指さしながら「あべのハルカスです」と言う。60階建て、300mから見下ろすときれいだらうな。

日本写真映像専門学校の生徒さんで、課外授業なので色々な角度から撮っているとのこと。2年間の学習でプロカメラマンとして成長していくのでしょうか。ガンバレと応援したあと、スマホで三名を撮ってもらいました。

夏休み中、いろんな人たちと様々な場所で体験した事が大人になった時に大いに役立ちます。サア！気持ちを切り替えて前進を。